

## 野生動物疾病協会（WDA）の歴史

1951年3月、野生動物の病気に興味のあるアメリカ人とカナダ人の科学者28名が野生動物疾病委員会という組織を設立した。これが、1952年に、今の私たちが知っている、野生動物疾病協会（WDA）となる。

もし歴史の全部を知りたいならば、英語だけでの記載ではあるが、[ここをクリック](#)してほしい。

今日、WDAは国際的な学会となり、野生動物の専門家、獣医師、疫学者、生物学者、生態学者、研究者、野生動物の病気や関連する分野における研究を促進する機関、管理、教育、コミュニケーションにたずさわる人々、コンサルタント、研究協力者など、多様な専門性を持つ人々がメンバーである。WDAは年に1回学会を開催し、学術雑誌を発行している。

### WDAが注目する分野

**絶滅危惧種** — WDA会員は絶滅危惧種の個体群の健康状態を保護あるいは改善するために、国際機関、国、地方自治体、民間機関と密接に協力して仕事をしている。たとえば、ワイオミングのクロアシイタチのモニタリング、デビル顔面腫瘍性疾患によるタスマニアデビル数の減少抑制、西オーストラリアに生息するフサオネズミカンガルー数が減少する理由などを調査している。

**狩猟と毛皮用の動物** — 広域な研究とサーベイランスにより、疾病による野生動物個体群に対するインパクトがよく理解されたので、民間と政府機関を通して、野生動物保護にさまざまな恩恵が与えられた。

**野生動物保全** — 会員自身が、あるいは野生動物生物学者と一緒に、環境毒物、地球温暖化、生息地域の改変、および外来種が在来の野生動物の健康に与える影響などについて調査している。

**野生動物の移動** — 多くの会員が地域間の野生動物の移動に関わっている。病気の侵入を防止したり、移動後の動物の健康状態をモニターすることに尽力している。

**野生動物のリハビリテーション** — WDAのメンバーである獣医師、診療関係者や他の専門家は、病気や怪我をした野生動物、特に貴重な絶滅危惧種の救護への関心が高い。

**動物園** — 動物園で勤務する獣医師は多様な種類の野生動物のケアを指導し、世界中で保護されている絶滅危惧種の管理や獣医的処置を担当している。また、彼らは野外に生息する野生動物の個体群の健全性の管理について、野生動物学者や他の自然保護管理者と協力して仕事をする。

**公衆衛生** — WDA 会員は、節足動物媒介脳炎、狂犬病、ツラレミア病、ライム病、ハンタウイルス病、ペスト、環境毒物や他の多くの野生動物から人に感染する可能性のある野生動物疾病に関する情報の提供に多く関わっている。

**家畜と家鶏** — 畜産に過大なる経済的被害を与える野生動物が関係する疾病のコントロールに関しても、野生動物専門家が基礎、臨床および野外の研究に携わっている。これらの病気とは、悪性カタル熱、ブルセラ病、結核、強毒内蔵型ニューカッスル病、アフリカ豚コレラである。

**比較医学** — 衛生と生物学の分野で訓練を受けた WDA 会員の多くは、野生動物をモデルに、人と家畜で見つかった病気の研究に従事している。

**エコシステムヘルス（生態系の健全性）** — 環境と関係なく生存できる生物種はいないので、多くの WDA 会員はエコシステムヘルス（生態系の健全性）という複雑な問題に取り組んでいる。具体的な話題としては、多くの水棲哺乳動物や海鳥は、海洋環境の健康状態を評価するためのバイオマーカーとして使われている理由から水棲動物の健康、そして、野生生息域への人や家畜の侵入により発生する多様な相互関係などである。

**野生動物の疾病の生態学** — 野生動物個体群における伝播ダイナミクスと病気のインパクトを理解することは、野生動物保全管理の将来における重要課題である。それゆえ、会員は、野生動物個体群における国内外に存在する病気の研究に携わりながら、伝播、生態、これらの個体群における疾病のインパクトに関して理解を深めている。